

# ホームメックス創立40周年

大村知事ら  
200人が祝う 豊田拠点に多業態展開

廃棄物処理、ビル管理、ツクス（錦町、社員1  
業地場最大の「ホームメックス」200人、餅原幹也社



創立40周年を迎えたホームメックスの餅原正和会長（左から3番目）と幹也社長（右から2番目） 10日夜、名鉄トヨタホテルで

長）が今年2月21日、会社創立40周年を迎えた。10日、名鉄トヨタホテル（喜多町）で周年記念パーティーがあり、大村秀章知事や古本伸一郎・八木哲也衆院議員をはじめ取引業者など約200人が同社の節目を祝った。

ホームメックスは餅原正和会長がトヨタ自動車勤務を経て、1975年に前身の豊栄クリーナーを設立したのが始まり。95年、現行名に社名変更した。一般廃棄物処理事業から警備、人材派遣、下水道維持管理業など業務を拡大し、04年5月に幹也氏が社長に就任した。その後、公共施設の指定管理者（豊田市高岡公園

体育館、みよし市文化センター・サンアートなど）、回収したてんぷら油から精製したバイオディーゼル燃料の利用、イベント企画の新会社設立、飲食事業（プロント3店舗、カレーのチャンピオン）、タイ・バンコクへの駐在員事務所の開設など精力的に展開している。式典で餅原社長は「リーマン・ショックや東日本大震災を経て、50年、100年継続できる企業を目指し、理念を超えたたくましい企業への思い

学生の店  
**みくさ**  
03-41-0011

を込め、ブランドメッセージ「快適以上をつくれ」を作った。お客さま地域、世界に認められる企業として存在意義を示

す意味でも快適サービスのファーストコールカンパニーを目指したい」と新たな決意を誓った。

また、トヨタ自動車元副社長でトヨタホーム顧問の清水哲太氏が「ホームメックスを静脈系に

定義し、企業論やトップのあるべき姿について熱弁を奮った。

静脈系の弱点として、お客の要求が多様性に富み、対応が異なる孤立性や経験を基にした人海戦術が求められるため、

でも共通項を見出す『標準化』のレベルを上げ、誰もができる『多機能化』が次の時代には必要不可欠」と強調した。

【後藤真一】